

太宰治の名作「斜陽」は、弟の直治が姉にむかって「爵位があるから貴族と言う訳にはいかないんだ。爵位がなくても天爵と言うものを持っている立派な人たちもいる」と書き出しています。

オシャレも真似をするだけでも美しくなれますが、内面がともなわなければキザになってしまいます。本当にオシャレなのは、新しい感覚のものを勇気を持って着こなすことだと私は思っています。今から30年位前、業界の会議で東京へと出て行く機会が多くなりました。田舎者の私はある日、女子事務員に「秋元さんは何時もおヒナ様ですね」と言われて帰宅。その事を女房に自慢気に話しますと、女房が大変悔しがり「お父さんそれはね、おヒナ様はいつも同じものをずっと着続けているからなのよ。馬鹿にされたのよ！」とひどく叱られました。それ以来、私は衣服に新しい関心を持つ様になりました。

折からの風潮は、お父さん、おじいちゃん、ダサイから、臭いから・・・を理由に一緒に街を歩いたり食事をするのは嫌だと言われています。特に私の会社は食べ物扱う女性栄養士、女性調理人ですから尚更であります。

私は東京での仕事が6年余り続きましたが、午前中は意外と暇でしたので美術館、ギャラリー、デパートを歩いて本物を見ることによって目を養い、婦人服も色彩感覚、デザインを美術品として眺めていました。いつの間にか妻の洋服はすべて私が買う様になり、妻は「アナタが選んだお洋服は派手だから田舎の街では着て歩けない」と嫌がりましたが、「自信を持って歩けばオシャレになれる」とよく説得して着せたものでした。そのせいか我が家の孫娘とその弟達はゴルフ、食事、居酒屋へは今でもよく誘ってくれています。

今、若者衣料の傾向に古着のリサイクル市場が盛んです。ウィゴー原宿店、原宿シカゴ、福岡ハンジローを始めとして3千社7千店を超えています。私も妻がなくなってから遺品の中からブラウス、ベスト、半コート、ロングコートをリサイクルして着ています。妻は身長160cm位、私は172cmですが、パットをはずして着るとゴルフウェアとしては意外とよく似合うのに大変驚いております。

一方婦人服業界では異変が起きて、田舎町で女性の下着を売り続けてきた「しまむら」は天下のヨーカ堂を追い抜いてユニクロ、イオンに次いで3位となり4位ヨーカ堂、5位高島屋、6位三越となりました。

「しまむら」の成長を見ますと「安売り（値引）は客の信用を失うことに気がつき、トレンド衣料へといち早く方針を変え、パート出身の才能ある女（ヒト）を店長に上げて店頭のトレンドをいち早く計画、発注生産へと結びつけてすばらしい成果を上げてきました。

しまむら963店中パート出身店長は562店となりました。私達の店も同じであります。従業員達は家族の将来と生活をかけて職場を守っているのですから、売上にも貪欲であり「常に売れる物は何か」と考えて売り場に立っているから尚更であります。オーナー達も是非店頭に立っていただきたいものです。